

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	アラビア語サナア方言におけるいわゆる分析的属格の#aggについて
Auther(s)	佐藤, 道雄
Citation	ニダバ, 27 : 20 - 27
Issue Date	1998-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048025
Right	
Relation	



アラビア語サナア方言における いわゆる分析的属格の ḥagg について¹⁾

佐藤道雄

1 はじめに

コーランのアラビア語や現代文語アラビア語では、名詞による名詞の修飾は construct stateの形（後続する名詞によって修飾を受けるときの形で、アラビア語の場合、語尾に特徴がある）を持った被修飾名詞の直後に修飾名詞の属格（人称代名詞の場合は非分離形）が続くことによって表される。

- 1 **zawjatu** **š-šayxi**
妻 (construct・主格) シャイフ (定・属格)

シャイフの妻は

- 2 **walada** **zaydin**
少年 (construct・対格) ザイド (男の名・属格)

ザイドの息子を

- 3 **bayti** **-hā**
家 (construct・属格) -彼女の

彼女の家の

一方現代の口語諸方言の名詞においては、一部のグループをのぞいて construct state とそうでない形式との区別がなく、格表示もないが、ある名詞の直後に他の名詞（人称代名詞の場合は非分離形）が続くという語順の関係によって、初めの名詞は被修飾語で次の名詞は修飾語だということがわかる。（以下4～6はサナア方言の例）

- 4 **marat** **aš-šayx**
妻 (construct) シャイフ (定)

シャイフの妻 (Watson 1993, p.12)

- 5 **wald zayd**
少年 ザイド (男の名)

ザイドの息子 (M&M)

6 **bayt-hā**
家 -彼女の

彼女の家 (M&M)

以上 1～6 のように名詞を直接前後させて修飾関係を表わすという語順による名詞修飾の他に、口語諸方言のみの特徴として、修飾関係を示す何らかの語を被修飾語と修飾語の間に介在させるという分析的な名詞修飾がある。この修飾関係を示す語は方言によって異なっており、また Harning によると関係代名詞や指示詞に語源を発するものと所有や財産を表わす実詞 (substantive) に語源を発するものとに分類され得るということだが、いずれの語も似たような働きをする。Harning が他の文献から収集した例をここに示す。

il-'abid māla	「彼の奴隷」	(Weissbach 48:9)
āl-bāgarah ḥaggi	「私の雌牛」	(Rossi 87)
is-sitt ibta'ti	「私の妻」	(Munzel 23)
pērēpis lē ssamen	'Butterflocken'	(Jastrow, Darag. 8.12.15)
l-līla dyali	「私の夜」	(Marcais, Djidj. 61)
la'ṣeb dī rižlih	「彼の足の指」	(Kampffmeyer, MSOS 12 23:1)

(Harning, p.19 佐藤訳、太字佐藤)

イエメンやその周辺の地域では、上記の Rossi によるサナア方言の例に見られるように、名詞と名詞の修飾関係を分析的に表わすために **ḥagg** (ないしは **ḥaqq**) という曲用しない語が用いられる。**ḥagg** とそれに続く名詞(句)あるいは人称代名詞非分離形 (以下「**ḥagg**句」) は基本的には名詞の後の前置詞句や同格名詞句と同じ統語構造をもっていると見ることができるが、意味的に興味深い特徴や他の前置詞句にはない独自の統語論的特徴がある。本稿ではイエメンのサナア地方の方言における **ḥagg** 句について、その語源、従来の記述で明らかになっている統語論的特徴と意味的特徴を概観し、その後で従来の記述ではあまり明らかになっていない、英語の absolute possessive (独立所有格) に相当するような **ḥagg** 句の用法についての用例を挙げ、それについての考察を述べたい。

2 **ḥagg** の語源

サナア方言においては **ḥagg** という語は上記の **ḥagg** 句を構成する語としてあるばかりでなく、その語源としての複数形 **ḥugūg** を持つ名詞としても用いられる。この場合は「所有(物); 権利; (**ḥagg** をもつ人に) 有利になったり有益になったりする事物」というような意味を持つ。

7 **fi** **hādā** 'ant 'alā **ḥagg**
～において (前置詞) これ あなた ～の上に (前置詞)

これについてはあなたに一理ある (*lit.* あなたは **ḥagg** の上にいる) (Basmah)

8 **jami' ḥugūg aṭ- tifi**
全て (定冠詞) - 子供

子供の権利全て (M&M)

ḥagg句における**ḥagg**の用法はこういった独立した名詞としての用法の一部が定着したものと考えられる。

9 **law aš-šarg al-'awṣaṭ ḥagg-i**
もし 中東 -1SG

もし中東が私のだったら (私の所有物だったら) (M&M)

10 **al -makān ḥagg-anā**
(定冠詞) - 部屋 -1PL

私たちの部屋

(部屋(すなわち)私たちの所有物) (Watson 1996, p195)

以上の本来の用法とは異なり、財産や所有を表しているとは考えられない **ḥagg** の例も少なくない。例えば筆者が調べたテキストの中で **ḥagg** 句と認定された94例のうち、人を示す名詞および人称代名詞が用いられているものは42例、人以外の物 (動物を含む) を示す名詞および人称代名詞が用いられているものが52例あり、これは財産などの所有者や権利者を表す以外にも**ḥagg**句が用いられ得ることを意味する。

11 **al -mā ḥagg al- jami'**
(定冠詞) - 水 (定冠詞) - モスク

モスクの水 (M&M)

12 **al- muḡāra'ah ḥagg al-yawm**
(定冠詞) - いざこざ 今日

今日のいざこざ (M&M)

13 **gahwih ḥagg al-'ādiḥ**
コーヒー (定冠詞) - 習慣

いつものコーヒー (M&M)

3 **ḥagg**句の統語論的特徴

ḥagg句と被修飾名詞を語順の関係から見ると、**ḥagg**句が先行するものと被修飾名詞が先行するもの、それに被修飾名詞が用いられないものの3種類がある。

3.1 被修飾名詞 + **ḥagg**句

ḥagg句は多くの場合先行する名詞を修飾する(94例中53例)。

14 **aš - šāḡī ḥagg-ak**
(定冠詞) - 使用人 -2MSG

あなたの使用人 (M&M)

3.2 ḥagg句 + 被修飾名詞

また、数の上では多くはない(94例中7例)が、**ḥagg** とそれに接続する人称代名詞によって**ḥagg**句が構成される場合、**ḥagg**句が被修飾名詞に先行することもある。Watson (1993, 1996)も指摘しているこの現象は、サナア方言においては他の前置詞句には見られない統語論的な特徴だと思われる。

- 15 **ḥagg-ah** **al-kutub wa -ḥagg-ah** **al- ja'ālah**
-3MSG (定冠詞) - 本PL それに - -3MSG (定冠詞) - 菓子
彼の本と彼の菓子 (M&M)

- 16 **ḥagg-iš** **muškilat** **aš-šarg al-'awsaṭ**
-2FSG 問題(construct) 中東
おまえの中東問題 (M&M)

3.3 独立して用いられる ḥagg句

更に、先行する被修飾名詞なしに独立して用いられる **ḥagg**句もある(94例中34例。以下**ḥagg**句全体を太字で示す)。上記第1項で挙げた語順による修飾関係を用いては、例えば日本語の「これはサーミーの本だ」にあたる表現はできても、「これはサーミーのだ」に相当する表現は不可能である。サナア方言に**ḥagg**句が存在し、他の方言にも様々な語を用いた同様の構文が存在するひとつの理由は、以下の例のような、先行詞なしの独立した属格名詞句を作ることができるからだと考えられる。

- 17 **kull-ahin ḥagg usrat - i**
全て -3FPL 家族(construct)-1SG
(これすなわち7軒の家は)それら全てが私の家族のです (Watson1996, 197)

- 18 **al - labwār** **hādawlā** **ḥagg al - mā'**
(定冠詞) - 井戸PL これら (定冠詞) - 水
これらの井戸は水のです (Watson 1996, 197)

このような独立した **ḥagg**句は、上の2例のように所有や種類を表すばかりでなく、日本語の「の」や英語の -'s 所有格には見られない意味で用いられることがある。これについては後で述べることにして、次に従来の文献で記述されている **ḥagg**句とそれに先行する名詞との意味関係について概観する。

4 従来の文献による ḥagg句と先行詞の意味的關係

ḥagg句とそれに先行する名詞との間にどんな意味的な関係があるのかは Watson 1993 と Harning が分類を行っている。

Watson 1993 によると **ḥagg**句とそれが修飾する名詞との間には以下のような関係がある。(pp.220-224)

- ・譲渡可能な所有：「シャイフの馬」「彼のじゅうたん」
- ・出所：「この食べ物」「昨日の新聞」「絹の布」
- ・説明：「ベッドのシーツ」「コーヒーのカップ」「ヘンナ(植物)の葉」
- ・部分：「家の鍵」

また Harning はメッカとイエメンとハドラマウトにおいて見られる **ḥagg**句とそれが修飾する名詞との関係として次のような分類を行っている。

- ・具体的な所有：「私たちのケーキ」「私の雌牛」「仲買人の家」
- ・資質：「フルの木」「乳の皮袋」「山羊と羊の毛」
- ・二つの物の間の永続的な階層関係：「浴室の水差し」「井戸の壁」「モスクの水溜め場」
- ・権威：「シャイフの召使」「彼の先生」
- ・抽象名詞を用いた属格関係：「国の模範」「女の話」
- ・近しくて相互的な親戚関係：「近所の人の子供たち」
- ・近しくて相互的な体の部分の関係：「雄牛の鞍で」「足の指」
- ・部分関係：「その先端で」

興味深いのは Harning が **ḥagg**句を用いた名詞修飾と語順による名詞修飾とを比較していることで、後者でしか表されない(つまり**ḥagg**句では表わされない)関係として次のような例を挙げている。

- ・近しくて相互的な親戚関係(!)：「彼の父」「大臣の娘」
- ・近しくて相互的な体の部分の関係(!)：「彼の髭」「彼の右耳」
- ・友人や隣人などの相互関係：「彼等の知り合い」「彼等の近所の人」
- ・被修飾名詞が pseudoexponent である関係(被修飾名詞が **ḥagg** と同じような機能をもっているもの)：'**axū l-bilzigi**「プレスレットの片割れ」(lit.「プレスレットの兄弟」)
- ・期間：「春の時」
- ・部分関係(!)：「壺の底に」「半ラトルのバター」(以上pp.71-77)

ḥagg句のように多種多様な名詞の関係を表すような(逆に言えば、一見、先行する名詞と **ḥagg**句内の名詞との間には何かの修飾関係があるとだけしか言えないような)構文においては、どのような関係が表されないかを考えることも重要だと思われる。この点 Harning の記述は参考になるが、上に見られるように説明に矛盾があることと、本人も

認めているとおりに対象が広い地域にわたっている割には資料の量が少ないことから鵜呑みにすることは避けたい。筆者が今まで検討したところでは、少なくとも **ḥagg** 句は動名詞とその意味上の主語や目的語の関係を表すことがない。

19 **wujūd al-'aṭfāl wa-l-mutarāt as-saykal**

存在 (定冠詞) - 子供たち それに-(定冠詞) - オートバイ

子供たちとオートバイの存在 (動名詞とその意味上の主語) (M&M)

(***al-wujūd ḥagg al-'aṭfāl wa-l-mutarāt as-saykal**)

20 **ijār mutur**

賃借すること バイク

バイクの賃借 (動名詞とその意味上の目的語) (M&M)

(***'ijār ḥagg mutur**²⁾)

5 独立して用いられる **ḥagg** 句の意味的特徴

独立して用いられるとき、**ḥagg** 句は主には上記例 9 「もし中東が私のだったら」や例 17 「それら全てが私の家族です」に見られるように所有や権利を表す。このような用法はわれわれ日本語話者にとっても「の」と共通しているので理解しやすいが、独立した **ḥagg** 句は、更に様々な意味を持ち得る。

「～の料金」(この意味での用法は Watson 1996 も指摘している。)

21 **wa - ḥnā bi-nḥāsib ḥagg al-mā**

～なのに - 1PL 考慮している (定冠詞) - 水

わしらは水の料金を心配しているのに (M&M)

22 **niddī lahā ḥagg al-kahrabā wa-l-miyāh**

我々は渡す 彼女に (定冠詞) - 電気 そして - (定冠詞) - 水

わしらは電気と水の料金を彼女に渡そう (M&M)

「～についての話」

23 **wa-hādā ya'ni ḥagg al - mayyit**

そして - これ つまり (定冠詞) - 死者

(葬儀の手順を説明した後で) そして、これがつまり死んだ人についての話です
(Watson1996, 283)

24 **wa-hādā ḥagg al-gāt**

そして - これ (定冠詞) - カート

(イエメンの嗜好品カートの説明をした後で)
そしてこれがカートについての話です (Watson1996, 245)

「(人が)～に値する／～を行う資質がある」

- 25 anta ḥagg gaṣdat allāh?
あなたM 目指すこと(construct) 神
あんたは神の目指すことのか(神の意に沿った仕事をするような人か) (Basmah)
- 26 ant ḥagg ‘amal ya‘āmil mustagbal al-’awlād wa-l-’ahfād
あなたM 仕事 ~と関わる 未来 (定)-子供たち そして-(定)-孫たち
あんたは子供たちや孫たちの未来に関わる仕事をするような人か (Basmah)
- 27 wa- bn -ī lā gadū ḥagg az-zuwāj
そして-息子 -1SG (否定) 彼が (定冠詞)-結婚
そしてわしの息子は結婚できるような者でもないし.... (M&M)

以上の例21～27での ḥagg句は、独立して用いられている点では例18と共通しているが、ḥagg が前出の何かの語句を表しているのではない点で異なっている(例18は「この井戸は水の(井戸)です」の意で、この場合の ḥagg は前方照応的に用いられている)。

参考までに、これを例えば英語の場合と比べてみると、英語の -'s 所有格が独立して、かつ前方照応的ではない用いられ方をするのは「～の家・店・寺院・病院」などを表す場合のみである。

Meg is staying at her uncle's. メグはおじの家に滞在しています。
She bought it at the druggist's over there. 彼女はそれをあそこの薬屋で買った。
St. Paul's is one of the sights of London. セントポール寺院はロンドン名所の
1つである。

(以上 竹林・小島編、研究社『ライトハウス英和辞典第2版』p.6より)

以上で見たように、サナア方言における ḥagg句は、独立して用いられると、単に「分析的な属格」とは呼びえない様々な用法がある。本稿はそれら用法の全てを網羅している訳ではないので、ここで挙げた例以外にどのような用法があるのか、またそれら全てを説明できる共通点があるのかを今後調べていく必要がある。

資料

Basmah:イエメン共和国放送のラジオ番組

(毎回2分程度。1992年3月9日から4月9日までのうちの20回分)

M&M (Mis'id wa-Mis'idah) :イエメン共和国放送のラジオ番組

(毎回4分程度。1991年11月から1992年2月までのうちののべ66回分)

Watson1996: Watson, Janet C.E. *Şbaḥtū! A Course in Şan'ānī Arabic*, Wiesbaden, 1996.

(サナア方言の教科書。著者によると全20課のうち第13課以降のテキストは実際の会話の収録なので、それを利用)

参考文献

Harning, Kerstin Eksell, *The Analytic Genitive in the Modern Arabic Dialects*, Goteborg, 1980 (Orientalia Gothoburgensia 5)

Piamenta, Moshe, *Dictionary of Post-Classical Yemeni Arabic*, Leiden, 1990

Watson, Janet C.E., *A Syntax of Şan'ānī Arabic*, Wiesbaden, 1993 (Semitica Viva · band 13)

-----, *Şbaḥtū! A Course in Şan'ānī Arabic*, Wiesbaden, 1996.

竹林 滋・小島義郎編『ライトハウス英和辞典第2版』研究社1990年

注

1) 本稿は西日本言語学会第27回講演・研究発表会(1997年9月6日)における筆者の口頭発表「アラビア語サナア方言における **ḥagg** について」に変更・修正を加えたものである。

2) **ijār ḥagg mutur* は、**ḥagg** 句が動名詞の修飾には用いられないという観点から不適格であるのと同時に、**ḥagg** が不定の名詞同士の修飾関係を表すために用いられることがまずありえないという点からも、まず存在し得ない表現である。一般に **ḥagg** 句とその修飾を受ける名詞(句)は、どちらも文法上は定(definit)になるのが普通であり、例13での *gahwih* ように被修飾名詞が不定だったり、例26の '*amal ya'āmil mustagbal al-'awlād wa-l-'ahfād* のように **ḥagg** 句内の名詞句が不定だったりすることは珍しい。**ḥagg** を用いた修飾関係でどのような場合に不定の名詞を用いることができるかについては文法的・意味的な条件がありそうだが、この点を明らかにするのは今後の課題である。